(平成19年12月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>12月期の野菜の入荷状況については、一部で秋の高温旱魃の影響の残る品目もあったが、今月に入って本格的な寒さがあり、露地野菜を中心に順調な入荷状況となった。結果として、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、夏以降の天候の影響をあまり受けていない土物を中心に安値傾向となったが、年末需要に支えられたことから、高値での取引となった。結果として前年同期を5%上回った。</p> <p>品目別には、かぶら、ほうれん草、きゅうり、ピーマン、ばれいしょが入荷増の単価安で推移し、長大根、はくさい、レタスは入荷増ながら前年同期を上回る単価で推移した。さらに、きゃべつ、とまと、生しいたけは入荷が減少し、単価高で推移した。西洋にんじんは入荷が前年並みで、単価高となった。ナスは、入荷は前年並みで、単価安となった。玉ねぎは、入荷減ながら単価安となった。</p> <p>根菜類は、入荷が3%増加し、価格は11%高となった。 葉菜類は、入荷は4%増加し、価格は11%高となった。 果菜類は、入荷が8%減少し、価格は10%高となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は6%安となった。</p>
果 実	<p>12月期の果実の入荷状況は、主要品目のみかんは安定した入荷となったが、全般的に天候の影響による着色不良や品質低下が見られた。結果的に入荷量は、前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は、主力品目の入荷増が大きく影響し、結果的に前年同期を23%下回った。</p> <p>品目別には、みかん、富有柿が入荷増の単価安で推移し、イチゴ、アールスメロンが入荷減の単価高で推移した。王林は、入荷減ながら単価は前年並みとなった。ふじりんごは、入荷量、価格ともに前年並みとなった。</p> <p>柑橘類は、入荷が23%増加し、価格は34%安となった。 りんごは、入荷が3%減少し、価格は4%高となった。 柿(干柿類含む)は、入荷が14%増加し、価格は17%安となった。 いちごは、入荷が25%減少し、価格は16%高となった。 メロンは、入荷が21%減少し、価格は24%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>千葉県，長崎県，徳島県を中心とする入荷。前年は豊作で産地廃棄まで行なわれたため，全国的に作付面積の減少が見られた。しかしながら，天候に恵まれたこともあり，出荷調整のあった前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，昨年が豊作傾向で単価安であったことから，結果として，前年同期を42%上回った。</p>
<p>かぶら</p>	<p>京都府を中心とする入荷。天候に恵まれ順調な入荷状況となった。入荷量は前年同期を17%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を15%下回った。</p>
<p>洋人参</p>	<p>長崎県を中心に愛知県からの入荷。各産地ともに順調な入荷状況となり，結果として，前年並みとなった。</p> <p>価格は，順調入荷ながら，L・Mサイズを中心に品質もよく販売環境が良かったことから，前年同期を16%上回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>茨城県を中心に兵庫県，鹿児島県，滋賀県からの入荷。各産地ともに豊作傾向で前年を上回る入荷となった。結果的に，前年同期を9%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら5～6玉を中心に安定した荷動きとなり，また，昨年が暖冬により価格低迷したこともあって，結果的に前年同期を32%上回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知県を主力に茨城県，滋賀県からの入荷。各産地ともに早魃の影響が残り，豊作傾向であった昨年を下回った。入荷量は前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，冬系を中心に高値で推移し，昨年が価格低迷したこともあって，結果的に前年同期を72%上回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>京都府を中心に徳島県からの入荷。近郷産地は栽培面積も減少傾向にあることから入荷は減少したが，他の各産地ともに天候もよく安定した入荷状況となり，結果的に前年同期を8%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を5%下回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>兵庫県，長崎県を中心に一部徳島県からの入荷。各産地ともに早魃傾向で遅れていたが生育も回復し，作柄は良好で順調な入荷となった。結果的に入荷量は，前年同期を9%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら昨年が豊作による単価安であったことから，結果的に前年同期を14%上回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>宮崎県を中心に滋賀県，高知県からの入荷。各産地ともに，高温によって定植時期の遅れがあり，不安定な入荷状況となったが，結果的に入荷量は，前年同期を4%上回った。 価格は，入荷増によって，前年同期を25%下回った。</p>
<p>なす</p>	<p>高知県を中心に，岡山県からの入荷。各産地ともに，加温用重油の高騰から栽培環境が悪化しつつあり，非常に不安定な入荷状況となったものの，結果として入荷量は前年並みとなった。 価格は，前年並みの入荷ながら，前年同期を9%下回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>熊本県を中心に滋賀県からの入荷。主力の熊本産が低音の影響を受け，結果的に前年同期を17%下回った。 価格は，入荷減によって前年同期を31%上回った。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。中旬までは順調な入荷となり，下旬以降が不安定な状況となった。結果的に前年同期を5%上回った。 価格は，入荷増によって，前年同期を13%下回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>北海道を中心とする入荷。北海道の栽培面積の拡大に加え，生育も順調で安定した入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を4%上回った。 価格は，消費の低迷から前年同期を22%下回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>北海道を中心に兵庫県からの入荷。作柄は良好であるが価格の低迷による出荷調整もあって全体としては前年同期を10%下回った。 価格は，入荷減ながら北海道産の価格低迷が全体に影響し，前年同期を10%下回った。</p>
<p>生しいたけ</p>	<p>徳島県，和歌山県を中心に広島県，岡山県からの入荷。規模拡大や新規参入の産地もあり，入荷量は順調であったが，中国産が激減したことから前年同期を3%下回った。 価格は，入荷減と国産需要の高まりから，高値での取引となり前年同期を8%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
みかん （早生含む）	<p>和歌山県を中心に福岡県，愛媛県からの入荷。高温早魃の影響から小玉中心の入荷となったが，昨年が極端な入荷減であったことから，前年同期を23%上回った。</p> <p>価格は，入荷増と前年が裏年で極端な高値で推移したこともあり，結果的に前年同期を35%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>長野県，青森県を中心に岩手県，秋田県からの入荷。長野県産は前年並みの入荷となったが，東北の産地については着色不良による品質低下等が見られた。結果的に前年並みとなった。</p> <p>価格も前年並みとなった。</p>
王林	<p>青森県を中心とする入荷。生産量が減少傾向にある上に病気の発生等もあり，入荷量は大幅に減少した。結果的に入荷量は前年同期を42%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら前年並みとなった。</p>
富有かき	<p>奈良県を中心に福岡県，京都府からの入荷。各産地ともに着色遅れによる出荷の遅れが今月中旬になってピークを向かえた。結果的に入荷量は前年同期を20%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって前年同期を33%下回った。</p>
いちご	<p>福岡県，佐賀県，熊本県を中心に大分県，愛媛県からの入荷。各産地ともに12月の曇天，降雨等により着色遅れが出ており，結果として入荷量は前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，年末需要により，終始単価高で推移し，前年同期を16%上回った。</p>
アールス	<p>静岡県，熊本県を中心に高知県，宮崎県からの入荷。各産地ともに栽培面積が減少したことから，結果として入荷量は，前年同期を19%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，年末需要により，終始単価高で推移し，前年同期を23%上回った。</p>